

議 事 録

会議名	市長と区教育・健全育成会議委員代表との意見交換会
日 時	平成30年7月15日（日）15時00分から16時35分まで
会 場	市役所本館3階大会議室
出席者	竹山市長、中谷教育長 杉本委員、西川委員、宇野委員、楠委員、中村委員、山野委員、福永委員
発言者	発 言 内 容
<p>■開会 久保部長</p> <p>竹山市長</p> <p>久保部長</p> <p>中谷教育長</p> <p>久保部長</p> <p>杉本委員</p> <p>久保部長</p> <p>西川委員</p> <p>久保部長</p> <p>宇野委員</p> <p>久保部長</p> <p>楠委員</p> <p>久保部長</p> <p>中村委員</p> <p>久保部長</p> <p>山野委員</p> <p>久保部長</p>	<p>お忙しい中、また非常に暑い中、お集まりいただきまことにありがとうございます。</p> <p>それでは定刻になりましたので、ただいまから市長と教育長、区教育・健全育成会議委員の代表との意見交換会を始めさせていただきます。</p> <p>初めに本日御出席されている方々を御紹介いたします。</p> <p>竹山修身市長でございます。</p> <p>よろしくお願いたします。</p> <p>中谷省三教育長でございます。</p> <p>この4月に教育長を拝命いたしました中谷でございます。どうぞよろしくお願い致します。</p> <p>区教育・健全育成会議、堺区の杉本厚夫委員でございます。</p> <p>よろしくお願いたします。</p> <p>中区の西川隆蔵委員でございます。</p> <p>よろしくお願いたします。</p> <p>東区の宇野佳子委員でございます。</p> <p>よろしくお願いたします。</p> <p>西区の楠玲子委員でございます。</p> <p>よろしくお願いたします。</p> <p>南区の中村浩也委員でございます。</p> <p>よろしくお願いたします。</p> <p>北区の山野則子委員でございます。</p> <p>よろしくお願いたします。</p> <p>美原区の福永正博委員でございます。</p>

福永委員	<p>よろしくお願ひいたします。</p>
久保部長	<p>私は本日司会を務めさせていただきます、教育委員会総務部の久保でございます。どうぞよろしくお願ひします。 それでは開会に際しまして、竹山市長から御挨拶がございます。</p>
<p>■挨拶 竹山市長</p>	<p>皆さん、こんにちは。 お忙しいところ、そして猛暑のところ、堺市区教育・健全育成会議の委員代表の皆様方については、お集まりいただきまして本当にありがとうございます。</p> <p>まず最初に、6月18日に発生しました大阪北部の地震につきまして、5人の方が亡くなられ、たくさんの方が被災されました。 堺市も摂津市の対口支援元として、摂津市の皆様方の罹災証明発行等々の支援を行ったところでございます。</p> <p>また西日本豪雨災害も起こりました。これも今、緊急消防援助隊が広島市と東広島市に、少しでも行方不明の方を見つけたいということで行っているところでございます。</p> <p>救援活動については、今のところ、府中町を大阪府全体で支えていくということで検討しているところでございます。罹災証明や建物の危険度判定、さらにはごみの収集まで、いろいろな課題がございますが、息の長い支援をさせていただきます。</p> <p>避難を希望される方々につきましても、20戸の市営住宅を用意させていただきました。あらゆる面でワンストップでサービスを提供したいと思っております。</p> <p>被災して堺に来られた方の教育、保育園等の支援も行っていききたいと思っております。もちろん無償でしっかりと、ケアも行っていききたいと思っております。</p> <p>区教育・健全育成会議の議論をしていただいて、地域で子どもを育てることがそろそろ芽生え始めたのではないかと考えております。子どもは、社会のものだと思います。個人と社会、そして学校がしっかりと連携しながら子育てしていく、これが堺市の教育のありようだと思います。</p> <p>特に堺は、歴史や文化というものを大事にしてきました。子どもが自己肯定感やシビックプライドを持てるようしっかりと学校や地域で支えていききたいと思っております。</p> <p>それぞれの区の中で、特色のある提言や、それを施策に生かしていただいております。今日は、それらを踏まえまして、皆さん方とよりよき堺市の教育のありようについて、御議論させていただけたら幸せだと思います。 どうかよろしくお願ひいたします。</p>
<p>■意見交換 久保部長</p>	<p>それでは、意見交換会に入りたいと思っております。</p> <p>各区の区教育・健全育成会議では、平成27年度から共通の審議事項であります「家庭・地域における教育・健全育成に向けた取組について」御審議の上、提言をいただいております。</p> <p>また各区では、その提言をもとに事業を実施しているところでございます。</p> <p>本日は、まず各区の審議や取組の内容等についての御紹介を3分程度で、順次、お願ひしたいと思っております。</p> <p>御紹介の間、取組の写真等を正面スクリーンに映しますので、併せてご覧ください。</p> <p>その後、これら御紹介いただいた内容などを受けまして、御意見をいただく</p>

杉本委員

という形で進めていきたいと思えます。

それでは早速ですが、最初に堺区の杉本委員からお願いします。

これまでの取組について御紹介させていただきたいと思えます。

まず我々は、子どもの課題というのは、実は子どもの中にあるのではなく、周りの大人の中にあると考えております。これが1つの大きなスタンスです。

とりわけ地域の大人たちの中に、子どもたちの課題が解決できるようなヒントが隠されているのではないかと考えています。それを我々は、子どもの心を筋交いで支える、斜めのつながりとしての「社会的親」として提言をしてまいりました。

これはどういうことかと申しますと、子どもたちをめぐる環境のなかには、まず、親・保護者・教師といった縦のつながりがあります。また、子どもたちは、友達・仲間という横のつながりを持っています。ただ、この横と縦のつながりででき上がった四角形は、非常に外圧に弱い格好になっております。これを斜めの、いわゆる筋交いで支えていく。斜めのつながりとしての社会的親が今不在であるから、さまざまな問題が起きているのではないかとこのことを、この4年間の中で、基本的な考え方としてきました。ですから、この理念を少し最初に御紹介させていただきました。

この考えのもとに、平成27年度は親支援、地域支援ということで、社会的親を育成するためにはどうしたらいいかということを考えてまいりました。

平成28年度は、いわゆる社会的親の集団としてのPTAを対象としました。PTAは、その学校の全ての子どもたちの親として、どう活動するかということが基本となっておりますので、このPTAをどう支援していったら社会的親が育っていくのだろうと検討を行いました。

平成29年度は子どもの居場所づくりについて審議を行いました。社会的親が活動する場所としてどういうものがあるのだろうということを、既存の子どもの居場所における親や大人との関わりを調査し、提言いたしました。

さらに、平成30年度の今回は不登校・非行などの課題を抱える子どもに対する支援というテーマで審議をしております。「抱える」という言葉については、現在も審議会の中で検討するところがありますが、子どもが社会の問題を抱えていると考えてもらったらいいかと思えます。そういう子どもたちをどう支援していくかということで、4年のサイクルの中で、地域が課題を解決するためにどうしたらいいかということを考えてまいりました。

具体的な活動についてご紹介します。子育てがおもしろくなる講演会と親子料理づくり体験については、いわゆるイベントミックスという形で行いました。子育てを前面に出すと、なかなか来てもらえないので、まず親子で楽しい料理づくりをして、その流れの中で子育てについて一緒に考えましょうという講演会をしましたところ、非常に多くの方に参加していただけて、非常に満足度の高いものになりました。

それから、親・子学習遊び塾を開催しました。親子あそび塾と聞いて、自分の子どもと遊べると思って来られる方が多いのですが、実は自分の子どもとは遊びません。自分の子どもではなく、他人の子と一緒に遊ぶことによって、社会的親になっていただこうということです。地域の親、その意味というものを理解していただこうと開催しました。

さらに、社会的親のコミュニケーション、あるいは社会的親のコミュニティーをつくってきたいということで、親支援コーディネーター養成講座を始めました。このことによって社会的親が増えて、子どもたちを見てくれる、あるいは親と親をつないでいく、家庭と地域をつないでいく、そういうコーディネーターを養成しようとしてきました。私たちはいわゆる必策仕掛け人と言っている

	<p>のですけれども、親同士をつないでいくようなコミュニティをつくれる仕掛け人になっていただきたいと思っています。</p> <p>それから先ほども御紹介しましたが、既存の組織としてのPTAが、自分の子どもだけではなくて、全校の子どもたち、あるいはPTAを終わってもなおかつ社会的親として地域の子どもたちを見ていく、そういうあり方を考えるためにはどう支援していったらいいかということで、シンポジウムやヒアリングを実施いたしました。</p> <p>さらに子どもの居場所ですが、これは昨年度の事業ですが、子どもの居場所にどう大人がかかわってくるかというところで、いろんな試みをさせていただきました。とりわけ子どもをお客さんにしないというテーマのもとにやっています。</p> <p>以上、子どもの居場所づくりも含めて、基本的には、社会的親をどう育てていくか、それから子どもたちをどう支えていくか、そういうことが子どもたちの環境としての大人づくりということにつながっていき、家庭と地域をつないでいくと考えて、活動をしておりました。</p>
久保部長	<p>それでは中区の西川委員、お願いします。</p>
西川委員	<p>平成27年度より「地域とのつながりによる青少年の健全育成」というテーマで継続した取組を中区では行っております。この取組の中で提出いたしました提言とその事業について説明させていただきます。</p> <p>まず1つ目の提言の事業が、文化系クラブの校外活動の支援と地域間交流の促進です。中区のイベント、あるいは高齢者施設等を利用いたしまして、中区の小学校と中学校の文化系クラブの日ごろの練習成果を発表する場を提供しております。</p> <p>平井中学校音楽部の地域交流施設での演奏の後、交流会が開かれまして、生徒とその施設の皆さんとのゲーム大会が開かれました。この交流会というのは、実は生徒たちが自然発生的に、みずから立案・企画したもので、このような活動を通して子どもたちの自主性や自尊感情、自己肯定感が育っていることが報告されております。教育的に大変意味のある活動へと展開しており、今後も継続してまいります。</p> <p>それから2つ目の提言の事業が、子どもの読書週間の充実です。</p> <p>読書習慣を身につけることが、ひいては学習習慣につながるということを狙いとした事業で、子どもが本と出会う場を提供しようという取組です。</p> <p>2つ、事業を紹介したいと思います。</p> <p>1つが、絵本の広場というもので、土師小学校の読書ボランティアの皆さんによる活動です。</p> <p>それからもう1つが、小学校3年生、4年生を対象にした読書感想文・感想画コンクールです。</p> <p>これは、セカンドブック事業にかわるものとして、子どもの読書への興味を高める、読書習慣を身につけてもらうということが、狙いにもなっております。優秀作品は学校長からも表彰され、区役所等で展示されるということで、昨年度、中区の小学校の3年生、4年生児童のおおむね70%の応募があり、非常に高い応募率を得たということで、さらにこれをもう少し高くなるように努力していこうと思っております。</p> <p>3つ目の提言の事業が、地域がともにつながり子育てに参加する場づくりです。</p> <p>昨今、各家庭での子育て力の低下、あるいは地域のつながりが薄い、あるいは地域の子育て力が低下していると言われておりますけれども、そのような現</p>

	<p>状を踏まえての事業がございます。</p> <p>1つが歴史マイスターの顕彰ということで、これは地域の歴史文化に精通された方を地域歴史マイスターとして顕彰する。地域への愛着を深めることを目的とした周知活動を支援していこうという取組です。</p> <p>東陶器小学校の堺っ子クラブでは、地域にお住まいの方が地区で出土した土器の破片等を、深井小学校では、まちの調べ学習で、校区にあるだんじり小屋の説明を、児童に説明していただいています。</p> <p>スクリーンに写っているのは、地域歴史マイスターの顕彰の場面です。</p> <p>3つ目の提言では、宮園校区、子どもの生活習慣応援事業でございます。</p> <p>これは平成28年度にスタートした事業です。今日は宮園校区の方がお見えになっておられますが、これは宮園校区の地域まちづくり協議会の御協力を得まして、子どもたちに朝御飯を提供するという事業です。地域の方、大学生ボランティアが活動の支援をしています。子どもたちは、朝御飯を食べて、それから歯磨きを必ずするのですが、歯磨きを済ませてから学校へ行くまでに少し時間がございますので、その間ちょっと読書をする、本に親しむ、そういう時間を設けております。</p> <p>参加している子どもたちは、最初のころは口数がそんなに多くはなかったのですが、最近はスタッフの人にも、「おはようございます」、「行ってきます」というような挨拶もできるようになる。また、スタッフの人にもはっきりとものが言えるようになってきたという、非常にいい効果が出ております。</p> <p>提言3つ目のもう1つの事業は、子どもがつくる子どものまち、ミニ☆大阪です。子どもたちが自分たちで架空のまちづくりをする。そういったまちづくりを企画・運営しながら、その体験の中でみんなでけんかもありながらの社会性や協働性を育むということを狙いとしております。</p> <p>4つ目の提言事業としまして、中区の小・中学校との連携を深める取組がございます。中区の小・中学校の校長先生と、中区の区教健のメンバーとの意見交換をしております。これも非常に貴重な取組でございます、今後も継続していこうと思っております。</p> <p>今後の取組といたしましては、今申しました事業をさらに継続・発展させるということがまず第一ですけれども、さらに昨年度来、子どもの居場所づくりという課題について審議しておりますので、これからその具体化に向けて検討を進めていこうと考えております。</p>
久保部長	<p>それでは東区の宇野委員、お願いします。</p>
宇野委員	<p>東区では、この区教健ができたときにつくられた相談窓口での孫のラインの使い方についてのおじいちゃんの相談をきっかけに、スマホを切り口として、2年間取り組んでまいりました。</p> <p>昨年からは、ネット・スマホの適切な利用だけではなく、「家での7つのやくそく」の中にもありますが、早寝・早起き、毎日朝ご飯といった望ましい生活リズムについての審議をしてまいりました。</p> <p>昨年は7回会議を開きまして、国の調査や区内の小・中学校からの聞き取りにより、いろんなことを把握し、分析し、会議に臨みました。7月には区選出の市議会議員の皆さんからも御意見いただき、10月に中間報告をいたしました。</p> <p>一昨日も議員との意見交換会をいたしまして、とても参考になる御意見を頂戴いたしました。</p> <p>去年の提言は、「ネット・スマホを生きる子どもたちの基本的生活習慣の定着について」です。1つ目は、子どもに対する成長過程に応じた取組、保護者</p>

に乳幼児期から子どもの健全育成の鍵を握っていることを理解してもらうことが必要である。また小学生、中学生には、子どもが望ましい生活リズムを身につけるきっかけとなる体験や子どもの心に響く経験を多く積むことが必要である。

保護者に対する取組といたしましては、子どもの発育にとって、生活リズムの大切さの理解を進めることが重要であり、家庭でのルールづくりの有効性の理解を進め、そして家庭で話し合う機会が必要であるということを提言いたしました。

地域での取組ですけれども、子どもたちがさまざまな体験活動に触れる機会を設けることが大切であり、地域での活動を情報発信し、共有することが必要であるということを提言いたしました。

この提言のもとで、東区では、今年度、夏休みに科学実験やアート、クッキング等の体験活動、体験講座、「ひがし・わくわくチャレンジサマースクール」を開催することになりました。その結果、小学校1年から3年生が対象でしたが、定員を超える応募がありました。

そして冬休みですが、登美丘高校ダンス部の皆さんの指導による、「ひがし・チャレンジダンス講座」を計画しております。

去年から今年にかけて話し合ったことをどう具体的に事業化するか、きっかけとなる体験、心に響く体験、家庭でのルールづくり、家庭で話し合う機会、情報を発信し共有する、そういうことを大事にし、その結果が今申しました体験型の事業に結びついた、区教健からの発信の事業であると思っております。

事業化したものの中で、いいものは続けていったらいいのではないかとということで、先ほど申しましたが、ネット・スマホの適切な切り口ということで、ネットの前に、食べることは外せないということで、バランス朝ごはん講座を保健センターが保護者を集めて計画しました。また今後、料理教室についても計画されています。いいものとして、平成28年にスマホ利用の注意点や生活習慣について、家族で考えるきっかけとなるリーフレット、ルールカードを作製し、冬の懇談会でなら保護者が来るだろう、手に渡るだろう、そしておうちで話をしてルールづくりができるのではないかとということで4年生、5年生、6年生に配付いたしました。

これは学校の方でも喜んでいただき、平成29年度、そして今年度も配る予定としております。

それからもう1つのキーワード、乳幼児、赤ちゃんからということで、乳幼児の保護者へのスマホ利用の注意点をまとめたリーフレットを作り、乳幼児健診、それから妊婦さんからということで、そういうところで配っていただいておりますが、東区の子育て支援センター、子育て支援課、保健センター、そして企画総務課が協力して作っていただきました。また、その健診のときに見ただけのように、「ママのスマホになりたい」という絵本等も置くようにしました。

中学校へ入学するとき、生活環境の変化により睡眠時間が減ったり、またスマホ利用を啓発するというですけれども、このためのリーフレットを作りました。いつ、どう渡せば保護者に届くだろうということで、中学校の入学説明会で配付させていただいております。「中学生活とスマホ」というリーフレットです。

地域では、青少年指導員や主任児童委員の皆様方の御協力で2回会合を開いていただきました。ルールづくりを啓発するミニのぼりを、どういうふうにごこへ置いたらいいかというようなことも、いろいろ話し合ってくださいました。現在東区の公共施設、例えば、体育館、図書館とか地域会館、幼・小・中学校、JAから郵便局まで、このミニのぼりを置いていただいております。

<p>久保部長</p>	<p>いいなというものは、次の年ぐらいにしか、なかなか事業化できないのですが、よいという判定をいただいたものにつきましては、今後も予算が続く限りやっていきたいと考えております。</p>
<p>楠委員</p>	<p>それでは西区の楠委員、お願いします。</p> <p>西区は、昔ながらの人々の結びつきが大変強いところでございます、子どもの教育・健全育成にかかわる活動についても、地域の皆さんが大変熱心に取り組んでくださっている校区が多いところでございます。</p> <p>この地域力を生かしまして、家庭の課題の解決のために、家庭と地域のきずなづくりをテーマにして、ずっと審議を進めてまいりました。</p> <p>平成29年度は、家庭教育の充実のための取組が地域で定着し、継続するためのポイントについてまとめ、提言させていただきました。</p> <p>そして、平成30年度は、これまでの審議内容を踏まえ、もう少し具体的に、子どもたちが元気になるための支援のあり方について審議を進めているところでございます。</p> <p>平成29年度に、提言に基づき実施いたしました事業を幾つか御紹介します。</p> <p>1つ目は、保護者に子育てについて考えていただく機会の提供や、保護者と地域で子育て支援活動をされている方との交流を目的として、夏休み親子クラブを実施いたしました。当日は、親子でまず防災体操を行いまして、その後保護者は子育てトークカフェで子育てについて意見交換を、子どもはスタンプラリーや夏休みの宿題を行いました。</p> <p>2つ目は、親と子どもが楽しく触れ合いながら、教育・健全育成にかかわる啓発を合わせて行う、ローリングストック非常食品を使った親子クッキングでございます。羽衣国際大学の御協力も得まして、親子クッキングをしながら、パネル展示を通じて子どもの生活習慣に関する啓発も行いました。私も参加いたしまして、保護者として祖母や父親の方も参加してくださり直接お話をさせていただきました。そして私たちが、今議論をし、めざしている内容もお話して、御意見を伺ったところでございます。これが昨年度の取組内容でございます。</p> <p>私は、この会議の中でお話をしていることを具体化して校区に提言していきたいと思い、昨年10月ごろから、校区で石津っ子クラブというのを立ち上げ、取り組んでおります。地域の方と交流しながら、子どもたちが宿題や読書をし、毎週水曜日の2時から6時まで地域会館で開催しております。初めの1時間宿題をしまして、その後1時間の読書タイム、後は子どもが自分たちで考えた遊びや公園での外遊びなど、子どもの居場所づくりの一環として行っています。地域ボランティアさんや英語塾をされていた方、元小学校教諭、元高校の先生に来ていただいて、子どもたちに勉強を教えていただいております。</p> <p>それから、ミニ図書館をつくりました。今年度、子ども食堂の件でテレビに出させていただいたのですが、それを見てくださった方から大変な応援がございまして、最初は200冊、追加で100冊、50冊の本を寄贈いただきました。連合自治会でも、みんなで当番をつくって、単位の町会長さんが机を出したり片づけをしていただくなど、地域を挙げて応援していただいております。</p> <p>先ほど申し上げましたように、昨年10月からは地域会館で、今年度からは、月1回木曜日に、校区の中心にある公民館で子ども食堂を開催しております。ほかに、西区では現在8か所で子ども食堂が運営されております。この子ども食堂も、テレビに出させていただきましたので、食材もたくさん集まっ</p>

	<p>てまいりまして、これから1年間、堺陵東ライオンズクラブさんが支援してくださるなど、応援隊が増えて喜んでいるところでございます。</p> <p>1つのモデルとなればと思い、取り組んでおりますが、このような取組が西区に広がっていき、みんなで手をつないで西区の地域力を高めていければいいなと思っているところでございます。</p> <p>そのほかにも、それぞれのところで、私たちよりも先行されている「浜寺4つのや図書館」等々、各校区ではたくさんの取組をされております。</p> <p>先日の第2回西区教育・健全育成会議では、学力・学習状況調査の結果を区の職員の方から報告いただきましたが、「地域の大人（学校や塾、習い事の先生を除く。）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか」という質問で、西区では「よくある」という回答が、堺市の平均よりも上回っているという結果が出ていましたので、先ほど報告した取組が、少しずつ実績としてあらわれてきているのかなと思っています。</p> <p>今後地域での支援のあり方について議論し、提言してまいりたいと思っています。</p>
久保部長	<p>それでは南区の中村委員、お願いします。</p>
中村委員	<p>南区では、「つながり」を大きなキーワードに、これまで3年間議論を重ねてまいりました。</p> <p>思い思いの意見を述べるのではなくて、南区としては確かな情報をもとに施策の立案等と実践とを結びつけようという大きな方針を立てまして、南区の子育て世帯の現状把握のためにアンケートを実施し、課題の抽出を行っております。アンケートは、非常に回収率が高くて、子育てに関する関心の高さがうかがえております。このアンケートでポイントとしましたのは、先ほど市長がおっしゃられた自己肯定感というところでございます。もう少し踏み込めば、非認知スキルと言われている意欲とか強調性とか粘り強さなど、単純に数値化することができない能力をどうやって育てたらいいのかを議論の中核としてきまして、そこで昨年度は、「子育て7つの鍵」を作成しました。この「子育て7つの鍵」は、7つの子育ての新しい視座を提供しています。</p> <p>アンケートの中で、子育て世帯の困り感、あるいは子どもの自己肯定感の低さといったことが浮き彫りになっている中で、学校も大きく変わる、そして地域の問題もある、しかしまずは家庭の中のつながり、社会の最小単位としての家庭の中のつながりに対して新しい視点を提供していこうではないかということとまとめています。</p> <p>この7つの鍵の選定につきましては、子どもを育てる中で、家庭と地域とともに学校を忘れてはなりません。2020年から新しく学習指導要領がスタートし、この学習指導要領は70年に1度の教育の大改革とも言われております。この学校の変化と家庭の変化、家庭の周知というところの整合性も、私たちとしては進めていきたいということもあり、7つのうち3つについては新学習指導要領に対応する形で「主体的・対話的で深い学び」の3つをキーワードに反映させました。</p> <p>またあと3つについては、「生活習慣の定着」に対応する形で「運動」「栄養」「睡眠」をキーワードに挙げまして、家庭内で新しい視点を提供してまいりました。</p> <p>そして7つ目につきましては、各家庭の鍵をちょっと考えてみましょう、そして地域とつながっていきましょう、ということで提案させていただいています。</p> <p>全部で1万1千部を印刷しまして、南区の各小学校の全児童の保護者、南区</p>

	<p>私立幼稚園、子育てひろば等々に配付を済ませております。</p> <p>現状、いろいろな御意見をいただいています、これをどうやって啓発・発展していくのかというところで、現在議論が進んでおります。</p> <p>これと関連しまして、出張プレイパークというもの、これは運動習慣の定着に向けた取組として進めております。昨年度は計3回行ってございまして、それぞれ500名程度の家族、参加者が来ていただきました。</p> <p>また南区の特性としまして、非常に自然豊かな地域であるということから、泉ヶ丘、榎・美木多、光明池、この3地域についてのウォーキングマップ、緑道をどういうふうに生かして健康になるかといったことの情報提供をさせていただいております。</p> <p>あわせて先ほど申し上げましたアンケート結果で、南区の子どもたちの読書習慣に課題があるということがわかってきましたので、今年度は読書・学習スペースの設置及び夏休み読書MVPを表彰する制度等も考えております。</p> <p>また、子ども司書のお薦めということで、ブックリスト「夏休み子ども司書のおすすめ本」ということで提供して、子どもたちの読書へのつながりを考えていきたいということでございます。</p> <p>先日、南区選出の議員並びに区民評議会との共同の議論の場というのをもちました。そこで大きなキーワードになったのが、今日の議論でもありますが、「地域をつなぐ、人をつなぐ、活動をつなぐ」ということでございます。</p> <p>それぞれ地域ごとに、いい活動をしているのですが、それぞれがなかなかわかり合えてないという現状も浮き彫りになってきましたので、この活動をつないでいく、コミュニティをつなげていく、そういったことも今後力を入れて進めていく必要があるのではないかということで、今年度は精力的に進めていく予定でございます。</p> <p>特に、泉北ニュータウンが昨年まちびらき50年ということですが、地域をどう再構築していくのかというのは、この区教育・健全育成会議の場でも非常に中核のテーマになっておりますので、今日またいろいろなお話を参考にさせていただけると思います。</p>
久保部長	<p>それでは北区の山野委員、お願いします。</p>
山野委員	<p>北区では、「つながり」をキーワードに、仕組みづくりに取り組んでまいりました。</p> <p>今のお話にもありましたが、それぞれ支援をしたいとか、支援にかかわっている人が、実は専門家同士も御存知ないこともあり、もちろんボランティアな人、地域の方はどのように、いろいろなところが動いているのかがわからないということもありました。</p> <p>したがって、その連携や協力によって、家庭や地域における教育・健全育成を推進するというのをベースに、まずはイメージとして、学校を拠点にして考えました。この「学校」というのは「教師」という意味ではなくて、学校という非常に信頼も高く、皆さんが集まったり、行きやすい場所でもあるということで学校を拠点にしたプラットフォームと、教育とか学校には限界があり、区役所で網羅していることもたくさんありますから、区役所を拠点にしたプラットフォームがつながっていくような仕組みづくりを考えました。</p> <p>学校では、課題の発見から次につなぐという拠点、そして学習支援の拠点としてふさわしいと考えています。私もいろいろなところでマイスタディのお話をさせていただくと、全国各地の人が非常に興味を持たれます。併せて、この区教健のことも非常に興味を持ってもらえますので、堺市全体としてすばらしい取組だと思えます。コミュニティ・スクールの取組や、スクールソーシャル</p>

ワーカーも増やしてくださっていますし、いろいろなことで学校プラットフォーム化を実現していける可能性があるのではないかと考えています。

そのような流れの中で、区役所プラットフォームからまずは始めていくということで、「子育て支援リーフレット」を作成しました。これは、校区福祉委員会や、子どものためにボランティアに動こうとしておられる方も対象に、支援者や専門家に配付されています。これをスタートに平成28年度には、「子どもの居場所のモデル事業」を実施していただきました。やはり小学校では、放課後は自分の校区外には出てはいけませんよという指導が学校でなされているわけですから、居場所が校区にないとだめだということが明確になりました。そのことから、北区では事業化することとし、平成29年度には「子どもの居場所事業」を創設し、5か所の居場所が開設されています。現在も北区でやりたいという方のお声を私も直接お聞きしています。

それから皆さんの話題にもなっていました基本的な生活習慣にも着目して、教育委員会さんが推進している「家での7つのやくそく」をいろいろなツールで啓発していくため、スマートフォンのアプリケーションを開発されました。スマホで簡単に、子どもにもわかりやすいような形やデザインで広めていくことを考えています。

このような形で、学校と区役所の連携により家庭教育支援につなげていければと思っていますところでは。

また、「家での7つのやくそく」を補完する役割として、挨拶や家でのお手伝いのほか、地域活動への参加や健康や体力の観点など健全育成の視点を中心とした「北区のとりのくみ」を策定しようと、私たちの中で議論し検討しているところでは。アプリとともにそれを学校と区役所で連携して広めていこうと思っています。

一方で北区の区教健として、これまでに中学校や小学校に訪問して学校長と意見交換をさせていただきました。また、「子どもの居場所」にも見学に行かせていただいたり、堺版コミュニティ・スクールを実現されている学校長にお越しいただき、取組の状況等のお話を聞かせていただきました。加えて、先進事例についても、他市からお越しいただき説明していただきました。

今年度は、これまでの審議の整理・総括や取組の効果検証を行いながら、仕組みを作りたいというのが一番大きなところでは。いろいろなところでグッドプラクティスができたとしても、仕組みがないと消えていくことがあると思うので、そのグッドプラクティスを支えていくような仕組みを作りたいというのが、私たちの一番のテーマになっています。

例えば、「子どもの居場所」で、ドレスや袴などを用意して、無料での写真撮影会をしている活動がありました。また、「子どもの居場所」に来ている子どもたちに図書部長や企画部長などの役職と役割を与え、子どもたちが主体的になり、お客さんではなく役割分担をして、生き生きと活動しているというような事例もございました。

そのようなグッドプラクティスが続けていけるように、運営者の方々がしんどいとならないように、支えていくことを検討しています。

この区教健のメンバーで、いろいろな議論があって、それが実現していく、市長に力を入れていただいているので予算化されていることも大きく、案が実現していくということが一番のやりがいであって、委員の皆さんも夢と子どものためにやりがいを強く感じていますので、最後に感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

久保部長

それでは美原区の福永委員、お願いします。

福永委員	<p>美原区のテーマは「子どもたちの自ら学ぶ力や規則正しい生活習慣を育む家庭・地域の関わりと支援について」です。</p> <p>私の方から具体的に3点お話しさせていただきます。</p> <p>1点目は、子どもたちが家庭で自分で学習する習慣をつけてほしいということで、小学生と中学生にノートを配付し、自分で学ぶ自主学習ノートの活用の充実を図っています。各学校の先生方に意見を聞いて、学年ごとにノートの種類を変え、また学校によっては冊数も決めて、頑張っている子どもたちには特に担任の先生からハニワ課長とかハニワちゃんシールをノートに張ってもらい、評価してあげ意欲を伸ばすようにしております。</p> <p>2点目ですが、美原区区教健という組織そのもののことをもっと区民の皆様知ってもらおう取組に力を入れています。具体的には区役所内に、区教健の取組を紹介するパネルの展示や、区教健の名前による「早ね・早おき・朝ごはん」の啓発のぼりを設置しました。もっと増やそうということで、現在では範囲を広げ、美原区内の地域会館・郵便局、区内の幼稚園・保育園・こども園、小・中学校にも協力を依頼し、区民の皆さんに啓発しています。この10月に行われる美原区独自の3中学校のフェスタでは、区教健のブースを作り、私たち委員が区教健について啓発活動を行う予定にしています。</p> <p>昨年8月には、区教健の委員と事務局で、区内の8つの学校園を訪問し、校長先生から直に各学校園の子どもの課題についてヒアリングをしました。またこの6月の美原区の校長会にも委員が参加して、今年度の活動に対する理解と協力を求めたところです。</p> <p>3点目は、子どもたちの学力を向上させるには、まず本が好きなことが大事だということで、読書をする習慣をつけるように、そのような取組を考えています。区の校長先生から、美原区には本屋さんが1件もないので不便との声もあり、区の自治連合会や区のPTA協議会の皆さんの協力を得て、家で使わなくなった児童書を回収し、美原区役所に初めて「まちなか文庫」を作りました。今年度中にこども館を中心に、あと4か所オープンする予定です。この活動を広げるために自治会長さんの協力を得て、地域会館に本の回収ボックスを置かせていただき、区民の皆様の協力を得ながら蔵書数を増やすように努めているところです。</p>
久保部長	<p>どうも皆様ありがとうございました。</p> <p>教育長、何か御意見等ございますでしょうか。</p>
中谷教育長	<p>ただいま各区での取組、議論をお聞かせいただきました。</p> <p>教育委員会では「第2期未来をつくる堺教育プラン」のもと、それぞれの世界へはばたく“堺っ子”、そして子どもの未来をつくる学校、そして情熱・指導力・人間力を備えた教員をめざしていこうということで取り組んでいるところです。</p> <p>昨日、ソフィア・堺で科学教育フェスタがございました。ソフィア・堺1階から4階の各階で企業さんからの御協力も得て、実験やいろんな取組をしています。従前は、来ていただいた方には全て参加してもらう形でしたが、そうすると全てを回っていただくことはできないということで、抽せん制にしました。5,000人ほどの応募があって、結果的に1,300人の方に当選のはがきを出しましたが、超満員の状況でした。</p> <p>そうしたところを見ていると、小学生の子どもたちは目をきらきらと輝かせて、実験やいろんな企業さんのお話を聞いています。そういった取組をすると、やはり先ほど市長がおっしゃっていたように自己肯定感であるとか意欲であるとか、夢を持てるような子どもたちができる、育つと思いました。</p>

	<p>各区でいろんな取組をしていただいている、子どもたちが参加し、夢が持てるような、意欲が出るような取組をしていただいているということは、非常にありがたいと思います。</p> <p>そして各区の皆さん方が、区の小・中学校の校長先生ともいろんな意見交換をしていただいているということも、非常にありがたいと思います。</p> <p>私も就任以来、各小・中学校を回らせていただきました。やはり校長先生方といろんな意見交換をする中で、同じ区の中であっても中学校が異なるとその地域の状況が異なるということがあります。それぞれが細かな取組をしなければならぬ、非常に難しいと考えているところです。</p> <p>そういう意味でも、皆様方が時間を割いていただいて、校長先生と意見交換をしていただいているということは、非常に重要であると、これからも地域の実情について、子どもたちの実情については校長先生方からの意見交換、意見を十分にお聞きいただきたいと思います。</p> <p>今後もしっかり、私ども教育委員会としましても、校長と意見交換をし、あわせて各区の区長が教育委員会の理事を兼務していますので、区長の意見も私の方で聞いていきたいと考えています。</p> <p>これからも皆様方に、子どもたちが意欲を持って夢を持てるような取組、また家庭と保護者、そして学校を結んでいただくような取組をしていただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>
久保部長	竹山市長、いかがでしょうか。
竹山市長	<p>私は常々、堺を国の内外から選ばれるまちにしたいと思っておりますし、堺を目指して、子育て層に来ていただきたいと思っています。そのためには、やっぱり子育て、教育が一番大きな要因になると思います。堺は子育てしやすい、教育がしっかり整っている、これは選ばれるまちの第一の要素だと思います。</p> <p>子どもの健全育成のいろんなシステムが整っているとか、見守りとか、公立の小学校や中学校が学力をしっかりと上げてくれるよと言われるようなまちが、これからの選ばれるまちになっていくと思います。</p> <p>今まで何でまちが選ばれていたかと言うと、仕事と生活の利便性で選ばれていたと私は思います。市のサービスがいいかどうかということももちろん大事ですが、それよりもこれからのライフスタイルを考えていくと、子どもやお年寄りが安心して暮らせるということが大事だと思います。教育は、安全・安心の部分でも大きなウェイトを占めていると思います。お年寄りの安全・安心というのは、健康寿命を延ばせるようなシステムになっているのかどうかということだと思います。</p> <p>加えて、今回我々は、災害や防犯に強いまちかどうかということのをこれから考えていかないといけないと思います。</p> <p>堺は、今、安全・安心なまちづくりを、一番充実強化しています。区ごとにそれぞれの防災計画をつくるとともに、校区ごとに避難計画をつくっている。また、受援計画もつくりました。もし災害が起こったら、どういう形で助けてもらうことができるかという計画をつくったのです。</p> <p>絶対に来る災害に対して、私は、堺は対応ができていますよと言いたいと思います。</p> <p>そして、教育と子育てと安全・安心は、みんな地域がキーワードなんです。地域でこれをやっていかないと、役所だけでやるのではなくて、地域を巻き込んでやっていかないと実現できないと私は思います。</p> <p>これから堺は、子育て、教育と安全・安心に注力していく。もちろん歴史や</p>

	<p>文化も大事にするのは当たり前ですが、この2つに地域を絡めていくことがやっぱり大事だと思いますので、是非皆さん方の御議論と、この安全・安心も含めた教育、子育てをしっかりと連携していきたいと思います。ありがとうございます。</p>
久保部長	<p>それではここからは、皆様の御発言等も踏まえまして、本日のテーマである「家庭と地域のつながり」について、意見交換をお願いしたいと思います。どなたか御意見等ございましたら、よろしくお願いします。</p>
福永委員	<p>美原区では、学校を回っていますと、校長先生が朝ご飯を食べてない子どもにパンを食べさせている学校が幾つかあります。それは個別に対応してもらって解決していますが、もう少し全体を見ようということで、「早ね・早おき・朝ごはん」などの生活習慣がどうできているかということについて、今年度アンケートをとろうと思っています。それを分析して具体化を考えることが1つです。</p> <p>もう1つは、各学校でいろいろな子どもがいて、課題を持っているのですが、教育委員会からスクールソーシャルワーカーを派遣してもらっています。大変よく頑張ってくれています。すごく親御さんにも入り込んでもらっていて、効果があるのですが、美原区の場合は他の区と重なっているのです。学校を起点によその学校を回る、我々としては、できればチームとして、学校の校長、教員を始め、区役所の相談員、事務職員の方、スクールソーシャルワーカーの方が、いろんな関係機関につながっていますので、組織をつくって対応したら、もう少し深く掘り下げて広くできるのではないかと、そういうモデル事業を考えてほしいと思っています。それができれば、スクールソーシャルワーカーについては、できれば美原区に単独で配置してもらいたいです。また、教育委員会も大きい組織で、なかなか区のことまで目が届かないと思うので、できれば区担当の指導主事も美原区に張りついてもらって、チームとして教育委員会とのつなぎ、学校園とのつなぎ、そしてソーシャルワーカーを活用し、学校の教員、関係機関等をつないで、子どもの課題解決を考えてもらったらどうかと思っていますので、是非御検討をよろしくお願いします。</p>
杉本委員	<p>今、市長のお言葉にすごく感銘を受けました。これから地域をどうつくっていくかというときに、防災というのは非常に大きなテーマになってくると思います。</p> <p>講演で皆さんに「うちの中でおしょうゆがなくなったとき、どうしますか」と聞くと、ほとんどの人が「コンビニエンスストアに買いに行く」と言うのです。「近所に借りに行く」という人はほとんどいません。</p> <p>市長がおっしゃったように、スーパーが近いからとか駅が近いからという利便性を求めてその地域に住んでいるということなのです。そのために地域における人間関係をつくる必要がなくなったのです。これは成長時代の考え方ですけれども、今安全・安心ということになると、便利だからということで地域を選ぶのではなくて、そこに人と人とのつながりがどうあるかということで、選んでくると思うのです。これはこれからの成熟時代の考え方になってくると思います。</p> <p>私はイギリスに住んでいたことがあるのですが、イギリスで家を探すときは、利便性ではなくそこにどんな人が住んでいるかということで選ぶらしいのです。</p> <p>これはやっぱり成熟した社会のあり方だと思っています。今回の災害についても、助かった人というのはほとんどが近所の人から声をかけられて避難した</p>

山野委員	<p>というのが多いです。阪神・淡路大震災にしてもそうです。助かった人というのは、ほとんど近所の人のおかげです。</p> <p>コンビニエンスストアができたことによって近所づき合いがなくなってしまった。近所のつながりがなくなったことを子どもたちは見ているので、子どもたちには近所づき合いというものがない。地域の大人に声をかけられたこともない。そういう中で育ってきた子どもたちが、近所づき合いをするでしょうか。</p> <p>子どものときから近所の大人に声をかけられて育ってきた人というのは、大きくなってやはり近所の人に声をかけて暮らしていくのだらうと思います。防災に強いまちというのは、実は近所づき合いがあるまちなんだろうと思っています。</p> <p>我々は社会的親ということで、近所づき合いができる親を子どもたちと一緒につくっていきたいと思っています。他地域ではありますが、ある学校で次のような試みをしてみました。最近、運動会では多くの親がビデオを持ってきて、自分の子どもを撮るのですけれども、その場所取りがすごく大変なところもあるようです。そこで、登校班で1台のカメラと決めてみました。そうすると、誰が撮るのかということをお母さんとして決めなくてははいけない。その親は、登校班の子どもたちのことを知ることによって、その子たちの社会的親になれるのです。</p> <p>登校班でビデオ1つとすることだけで、地域の中に社会的親が生まれて子どもたちは地域に帰っていき、子どもたちが帰ってきたら、お帰りとお声がかけられる。そういう動きが出てきたという事例もあります。</p> <p>そんなことも含めて、我々が堺区で考えてきたのは、地域の中で子どもたちを受け入れる、その中で育った子どもたちの近所づき合いができてくることで、防災に強いまちになっていくのではないかと考えています。</p> <p>堺では校区福祉委員会や民生委員さんもすごく活発で、去年の民生委員会の大会に呼ばれて行かせてもらいました。西区でしたけれど、校区でお化け屋敷をされていて、1,000人以上の子どもが集まったとか、すごくおもしろい取組がいっぱいありました。また、子ども食堂の取組でも、堺市が堺の社会福祉協議会に委託して、子どもの貧困対策の関係ですけれども、貧困だけということではなく、いろいろなことをみんなで議論しましょうというなかで、子ども食堂円卓会議というのを実施されています。そこへ行けばいろいろな人が集まっていて、いろいろな知恵があって、誰でも参加オーケーでという、そのような場所をつくっておられます。地域の人、企業なども参画されています。私も文科省中教審の委員や、内閣府の子どもの貧困対策検討会委員もしているのですが、そこで、この取組が取り上げられていてすごい反響なんです。</p> <p>なぜかという、1つの場所に、住人も参加して、お母さんも、自治会長も企業も市役所の職員やケースワーカーも来ている。いろいろな企業がどんどんつながっている。北区の「子どもの居場所」の人たちも参加しているのですが、横並びで皆さんが学び合えます。</p> <p>子ども食堂の円卓会議は年に3回、4回開催しています。前回見学した人が、3・4か月後にはもう子ども食堂を実施しているのです。4か月でどんどんつくっていかれます。財源的には、フードバンクやオリックスさんなどがサポートされています。</p> <p>さきほど私が申し上げた学校プラットホームのイメージで、宮園もそうですし福泉東もそうですし、学校や学校に隣接している場所を拠点に子ども食堂を実施されているのが、堺の中で7つぐらいあるのですが、これは全国ではないことです。「なぜ堺でそんなに広がっていくのですか」と質問を受けるくらい</p>
------	--

	<p>です。それは市長もおっしゃった、地域が一緒に入りやすかったり、見える化しているということだと思うのです。</p> <p>そういう意味では、この区教健の取組は私たちにとって、すごく勉強になっていて、あそこの区の取組をまた参考にさせてもらおうかなどと思うのですが、この取組をされている当事者の人たちの交流会や区教健全体で何か集まるイベントなどがあると、各区の取組はより、よくなっていくのではないかと思います。</p> <p>円卓会議では、すばらしい取組をたくさん聞かせていただきます。スクールソーシャルワーカーも来ていますし、生活保護の担当や児童相談所なども来ています。だから自然につながっていくのです。そのようなことを区教健の実践交流としても是非考えていただければと思いました。</p> <p>大変参考になる意見ばかりで勉強になります。</p> <p>私からちょっと違った視点で提言させていただきたいのですが、南区のアンケートが発言の根拠になっているのですが、実はコミュニティには関心がある。これはほとんどの住民の方がおっしゃられていることです。ただし、参加するには気が引けるということです。本当にいろんな取組自体は行きたいな、関心があるなと思うけれども、役割を担っていただけますかという問いに対しては、非常に低いスコアしか出てこない。このあたりをちょっと考えないといけないだろうと思います。</p> <p>ともすればやる義務とか、やりなさい、こういったことは今の時代性からいうと、負担が非常に高い印象を植えつけているのではないかということです。</p> <p>ですからもう少し、市長がおっしゃられる緊急時にどうつながれるのか、災害が起こったとき、緊急時にぱっと動く、これは本当に大事なことです。</p> <p>一方で、平常時でつながっていなければ、この緊急時もつながってこない。この平常時でどうやってコミュニティをつないでいくのかということ、考えていかないといけないだろうと。</p> <p>そこで、南区で議論しているのが、気軽さとか気楽さ、来やすさみたいところをやはり若い世帯の子育て世代の方々に感じていただく、こういったことも重要だろうと。コミュニティというと、ちょっと面倒なイメージを持っている若い方々もいらっしゃいます。ひと昔前では子どもが主体となって、そしてコミュニティが形成されていったが、今では子どもがすごく減っている。</p> <p>そういう中で、あまり強いつながりといったことを全面的に打ち出すのではなく、緩やかなつながりをどういうふうにつくっていったらいいのかということも議論すべきではないかと思っています。</p>
<p>中村委員</p> <p>楠委員</p>	<p>山野委員がおっしゃったんですけれども、私たち西区の5名の委員は、少し他区と状況が違います。現場に近いといいますか、私も福祉委員長ですし、他の委員の方も民生委員児童委員や人権擁護委員として、区で実際に動いて、いろいろと地域で活動をしておられます。このメンバーでの議論の中から、区で実施している教育相談はなかなか遠くて行きにくいという親御さんがいらっしゃるの、校区に出張してというのを提言してみましたけれども、相談者が増えたかということそうではない。</p> <p>先ほどPTAの話も出ましたけれども、参加が少ない、子ども会も少ない、これをどうやって地域とつなげようかと考えたときに、ある具体的な行事を通して、1回のイベントではなく、継続的なものを事業化して、そこに来た親御さんの悩みを聞こうという取組をしてみました。その一つとして校区福祉委員会で子ども食堂を開催し、そこに来られた親子さんの話を聞こうという取組をしています。</p>

	<p>子ども食堂は、月1回なんですけれども、前月は78名が来ました。本当に大変でございます。テレビで紹介したおかげでございましたけれども、びっくりいたしました。今月も先週の木曜日にやりました。子ども食堂の本来の目的である貧困家庭を応援するというのと、プラスアルファの効果として、つながりをつくりたいという狙いがあります。</p> <p>前は56名が来ました。そのうち、親が13名でした。これだけ多くの参加があると、私たちボランティアだけでは大変だから、若いお母さんも助けてよ、一緒にやりましょうよとお母さんたちにも声かけをしました。PTA、そして子ども会とも手をつないで、連合自治会長さんと共に、町会を挙げてやっているところです。この活動を通し、地域に住みながら、今まで知らなかった地域人材をいっぱい見つけることができました。</p> <p>そして、その地域人材によって、子どもたちがまちでいろんなこと教えていただいたり、声かけしていただいたりするというような取組が、ちょっと前進しつつあります。まだまだこれから先のことですけれども、私たちもパンフレットの配付やいろんなことも考えましたけれども、具体的な取組の中から手がけていってみたいということをしましたところ、大変いい反響が出てきたのではないかと考えています。西区では、例えば将棋クラブで、地域のおじいちゃんたちに教えてもらったら、強くなり、全国でも良い成績をあげられたとか、この間はディスコン大会をしましたけれども、老人会の方が来てくださった。このようなつながりの中で、人材発掘ができています。それが私たち西区の地域のつながりが強いところで、区の特徴ある提言につながると思っております。</p>
宇野委員	<p>東区も、本当にチーム東として、子育て支援課や保健センター、皆さんよくやっていて、例えば、区教健の提言したことをどう事業化しようかといったときに、やりましょうと言って同じ方向を向いてくださる。区役所の中の横の連携ができています。それはうれしいなと思っています。進んでやりますという、それを、広報に出して知ってもらったら、区民の皆さんがどれだけ知っているんだろうかということで、今回6月の広報に掲載した夏休みの体験は区教健の関連事業と掲載していただいた。冬には登美丘高校のご協力を頂いてダンス教室を予定していますが、今度はもっといっぱい応募があったらどうしようかと、そういうことも考えています。</p> <p>学校も地域もあっちこちいっぱい取組をしている中で、区教健から提言したことが、ええっ？ということでは、私はいけないと思っています。やっぱり区教健が話してくれてありがとう、うれしい、よかったと、そういうためには、やっぱりPRも必要だと思いますので、先ほど福永委員も言われましたけど、どう取組の紹介をするかということが大事であるかと思っています。</p>
西川委員	<p>各区の取組を聞いておられます、何か一歩も二歩も前に進んでおられる取組がいろいろあって、大変勉強になりました。</p> <p>先ほど市長がおっしゃった、地域の子育て力を評価していくということと、それから子どもとお年寄りの安心・安全をしっかりと図っていくということが、市としてもとても大事だということ。そのためには、特にお年寄り方の安全・安心を図る意味でも、健康というものが大事だとおっしゃられましたが、私もそれに触発されて少し思うのは、やっぱり生きがいだと思います。</p> <p>その生きがいというものを考えたときに、このキーワードを考えると、やはりその地域に役に立っているんだという意識をどれだけ醸成していくことができるのかというのが、我々の1つの大きな役割ではないのかと改めて思いました。</p>

	<p>その意識を醸成していくということと、それとこれは我々中区の健全育成の基本的考え方ですけれども、お金を投入していくという、いろんなこともあるのですが、と同時にそれがやはり地域の資源の活性化といいますか、堺市にはいろんな資源がございます。そういう資源を活性化していくという意味で、先ほど西区の御説明でも、いろいろな活動をしていく中でいろんな人材がみつかったということですが、私もなるほどなと思って、そういう形で区教健並びに区の働きが大事なのかと改めて感じました。</p> <p>それともう一つは、いろんな働きかけをしていくことはとても大事ですけれども、区教健のもう一つの重要な仕事は、そういう働きかけをして、活性化をしながら、結局子どもはどう育ったのかと、その辺の効果説明といいますか、いろいろやりましたよ、これも企画しています、これもやったと言うと同時に、今度はやはりそうしたことによって子どもがどう育ったのかという側面がこれからに向けての課題ではないのかと改めて思いました。</p> <p>こういうものは学力をはかるというようなものではなくて、数値化したり見える化ということは、なかなか難しい部分もあるのですが、やはりやっていかなければならない課題ではないのかと改めて感じました。ありがとうございました。</p>
杉本委員	<p>今年、我々が不登校や非行等について検討しようとした背景は何かといいますと、学校の先生方の労働が本来のすべき仕事以上のことをしているということがあるだろうと思います。</p> <p>先ほど市長からもありましたが、学習に専念していただける先生方を支えていく必要があるということです。それ以外のこと、例えば不登校や非行等の課題に関しては、地域で、あるいは家庭で対処していく必要があるのではないかと思います。それを今、全部学校に押しつけてしまっているという現状があるので、もう一度それを地域や家庭の中で考えていける、そういう場をつくっていきたいと考えております。今度は教師を支えるということも含めて、堺区の区教健では今年そのテーマに取り組んでいるということでございますので、御理解いただければと思います。</p>
久保部長	<p>ありがとうございました。 皆様から貴重な御意見を頂いているところでございますが、教育長何かございますか。</p>
中谷教育長	<p>美原区の福永委員もおっしゃったスクールソーシャルワーカーについてですが、今、学校の中で子どもたちの問題というのは非常に複雑化している状況がございます。家庭、また生徒同士という中では、スクールソーシャルワーカー、またスクールカウンセラーの方々の役割が重大になっていると考えています。今、チームとして派遣して活動してもらおう仕組みもつくっていますが、現状の仕組みを、もう一度システムとしてちゃんとできているのか、検証していかなければならないと考えています。</p> <p>あわせて、先生方の労働の問題、学校での滞在時間が非常に長くなっています。</p> <p>私どもも先生方も、教職員の働き方改革ということで、SMILEという働き方改革プランをこの3月につくりまして、労働時間の短縮に取り組んでいます。その中で、部活動の指導支援員を12名の予算枠をとって募集しました。運動部が中心ですが、地域の方、またその専門的な経験のある方が応募していただいて、9名の方にこれから学校現場で頑張っていただこうと考えています。</p>

	<p>そういう意味で、先ほどございましたが、地域人材の発掘というのは非常に重要だと思います。そうした方が出てきていただくことによって、部活動であるとか、今お話がございました非行や不登校、また子どもたちの学習支援という部分でも御協力いただけるのではないかと思います。</p> <p>この点は皆さん方の活動の中でも、まさにその地域人材の発掘に取り組んで頂きたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。</p>
楠委員	<p>今、杉本委員と教育長のお話にありましたが、不登校・非行という問題の中で、民生委員児童委員とか校区福祉委員などの地域人材は地域にいるわけです。また、先ほど申し上げた石津っ子クラブでは週1回、勉強を見えています。私も元教員でございますが、積極的な要請があれば、今おっしゃったように出かけていくということもできるわけです。</p> <p>不登校の子に声をかけたくても、校長先生に言うと、「個人情報の観点から」とおっしゃる。難しいことですが、やはり地域と一緒に、そういうことをやっていけば、もっと効果が上がるような取組ができるのではないかと考えています。私たち区教健のメンバーも含め地域で活動している者は、常に地域の人材を使ってほしい、応援しますよと言っているということ、教育長に伝えたいと思っておりました。よろしく願いいたします。</p>
久保部長	<p>それでは本日の意見交換の総括を含めまして、最後竹山市長、お願いします。</p>
竹山市長	<p>ありがとうございました。本当に貴重な御意見をいただきました。</p> <p>今、地域の自治会と学校のPTAが危機に瀕しております。担い手がだんだん少なくなってきた、自治会は高齢化していき、若い人がなかなか入らなくなってきた。それを何とかしたいという思いが区民評議会と区教健にございます。地域人材をどう発掘していくかということ、地域の中で議論していくことで、手を挙げてくれる人を発掘していきたいと思っております。</p> <p>私は、市の職員に「MBAよりもPTA」と言っています。MBAで難しい勉強をするよりも、PTAでいろいろ汗をかくことが大事だと言っています。</p> <p>しかし、やはり市の職員だけでは限りがありますので、市民の皆さんに地域のキーパーソンになっていただきたいと思っています。</p> <p>先日、南区で区教健と区民評議会と議員の皆様との議論の中で、地域の担い手、キーパーソンは市の職員だという議論がありましたが、私は間違っていると思っております。</p> <p>やはり市民がキーパーソンであって、市の職員はコーディネーターなのです。そういう意味で、担い手をどう発掘して、その気になってもらえるかどうかということ、組織として考えていかなければならないと思っております。</p> <p>そして、その議論の中でもう一つ大事なことは、堺市の地域のキーステーションがどこであるかということです。</p> <p>キーステーションは区役所です。区役所には、ケースワーカー、保健師、教育の専門家、税の専門家などいろいろな専門家があります。こういう専門家のいる区役所をもっと使って下さいよと私は言いたいと思っております。</p> <p>区民評議会と区教健がどういう仕事をしているかということ、これをこれまでなかなか発信してなかった。4年目でやっと、こういう様々な形で芽が出てきたと思います。これをしっかりと発信していきたい。議会の中でも、この2つの機関は何をしているのかという議論がまだあります。やっていること、具体的な実績をしっかりと議会の皆様方にお示しするとともに、日本全国に対して発信していきたい。</p>

<p>■閉会 久保部長</p>	<p>無料の放課後学習が、この8年間やって、やっと芽が出てきました。全国学力・学習状況調査では、小学校6年の算数Aで政令市で1位になったのです。こういうことは今まで堺ではなかったのに、無料の放課後学習でつまずいている子を支えることによって、学校がおもしろくなる、勉強がおもしろくなるということで、このような結果になったと思います。</p> <p>無料の放課後学習や子ども食堂が多くの方から評価されていることを、もっと堺はこれから発信して、あらゆる方々に堺の教育、そして堺のまちづくり・地域づくりはこうだということを発信し続けたいと思いますので、どうぞよろしく御支援のほど、お願いいたします。ありがとうございます。</p> <p>それでは、これをもちまして本日の意見交換会を終了させていただきたいと思えます。</p> <p>皆様ありがとうございました。</p>
---------------------	---